

# 黒部市社会福祉法人連合会『ふくしの暮らしアンケート』調査結果

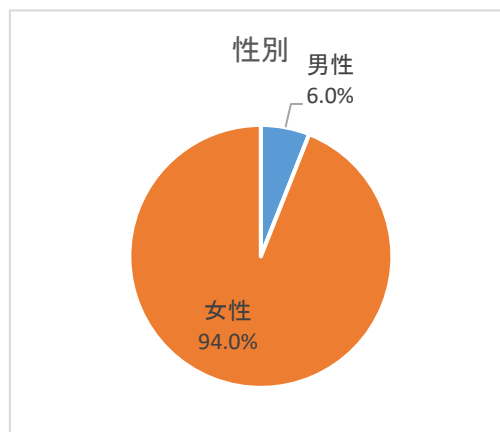
調査依頼者総数…100名 回収枚数…100枚 回収率…100.0%

## ◎ 属性

### 1. 性別

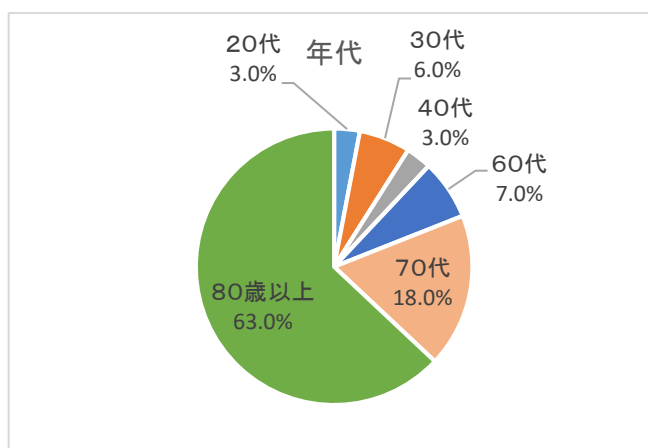
	回答(人)	%
男性	6	6.0
女性	94	94.0
全体	100	100.0

回答者の性別は、女性が94.0%、男性が6.0%と圧倒的に女性が多かった。相談会と同日開催していた福祉センター年越しまつりの来館者の割合もこの男女比にほぼ等しいことがうかがえる。



### 2. 年代

	回答(人)	%
20代	3	3.0
30代	6	6.0
40代	3	3.0
50代	0	0.0
60代	7	7.0
70代	18	18.0
80歳以上	63	63.0
全体	100	100.0

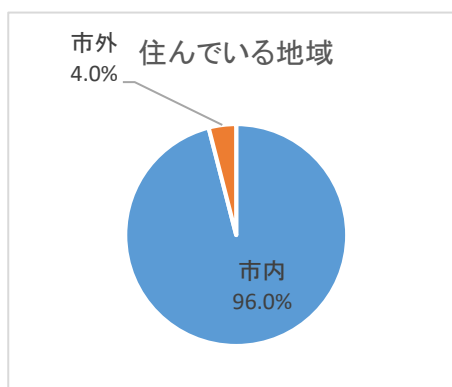


回答者の年代は、80歳以上が63.0%と最も高く、次いで70代が18.0%、60代が7.0%であった。また、20代、30代の若い世代からも9.0%の回答を得ることができた。

### 3. 住んでいる地域

	回答(人)	%
市内	96	96.0
市外	4	4.0
全体	100	100.0

※市外：入善、朝日

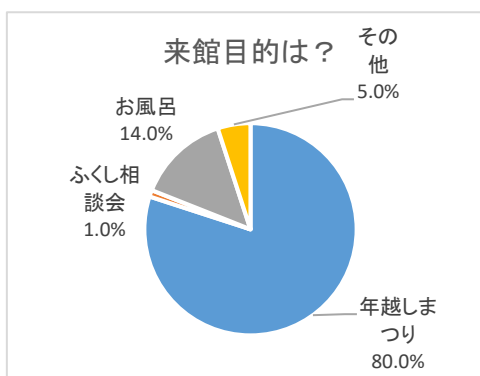


市内から来られた方が96.0%、市外から来られた方が4.0%と、約9割が市内在住であった。

4. 今日来られた1番の目的は

	回答(人)	%
年越しまつり	80	80.0
ふくし相談会	1	1.0
お風呂	14	14.0
その他	5	5.0
全体	100	100.0

【その他】 演芸発表、保育所発表、囲碁

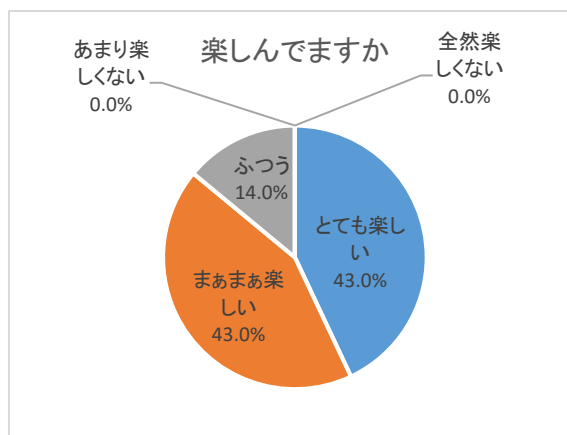


1番の来館目的は、8割が「年越しまつり」であった。ふくし合同相談会を目的として来館した人はほとんどなく、その他の2割は、通常営業しているお風呂利用や趣味を目的に来館していた。

◎ 生活について

5. 毎日楽しんでますか

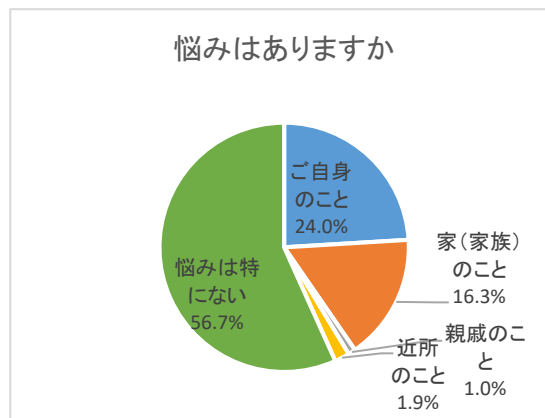
	回答(人)	%
とても楽しい	43	43.0
まあまあ楽しい	43	43.0
ふつう	14	14.0
あまり楽しくない	0	0.0
全然楽しくない	0	0.0
全体	100	100.0



毎日の生活を「とても楽しい」、「まあまあ楽しい」と感じているが同率で43.0%、「ふつう」が14.0%、「あまり楽しくない」、「全然楽しくない」と答えた人はいなかった。

6. 今、悩みありますか(複数回答)

	回答(人)	%
ご自身のこと	25	24.0
家(家族)のこと	17	16.3
親戚のこと	1	1.0
近所のこと	2	1.9
その他	0	0.0
悩みは特にない	59	56.7
全体	104	100.0



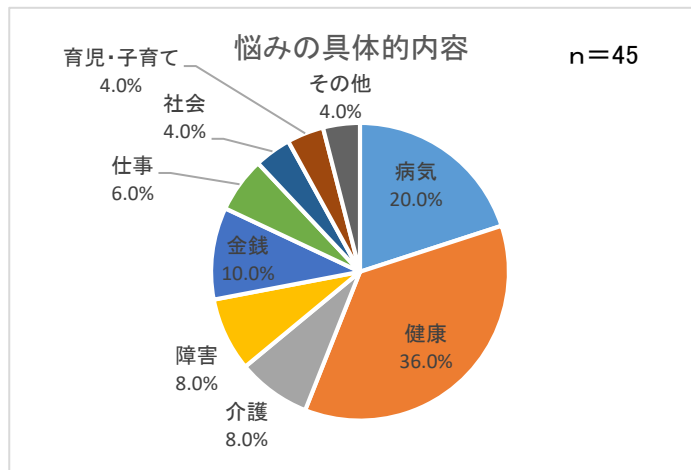
悩みのある人は全体の4割で、その内容は、「自身のこと」が最も多く24.0%、次いで、「家(家族)のこと」が16.3%、親戚、近所のことについても少数ではあるが、回答があった。しかしながら、「悩みは特にない」と回答した人が約6割あり、この結果からも、専門員につなげるような大きな悩みを抱えている人は、来館されていないことがうかがえる。

## 7. 悩みの内容(複数回答)

	回答(人)	%
病気	10	20.0
健康	18	36.0
介護	4	8.0
障害	4	8.0
金銭	5	10.0
仕事	3	6.0
社会	2	4.0
育児・子育て	2	4.0
その他	2	4.0
全体	50	100.0

### 【具体的な内容】

体のこと、膝の痛み、足痛い、腰曲がる、置き忘れがある、聞いても忘れてしまう  
 体力の低下、足が少し不自由、足膝に痛みがあり心配、リウマチ  
 5月に肺がん手術との間調べたら転移していなかったのが喜んでいますが。今後どうなるか心配  
 1人暮らしなので健康のことが心配  
 夫(支援1)の介護について、夫の健康状態について、今後の家族の健康のこと  
 孫の結婚、孫の幸せ、子供の結婚、子供のこと  
 自分の人生の最終の「住み慣れた地域」を前住地、現住地との選択に日々悩んでいます。  
 仕事が忙しいこと  
 交通機関(バス)が不便、センターの風呂入りたいけど朝のバスが早いので乗れない。  
 台風の時の雨風、断捨離について

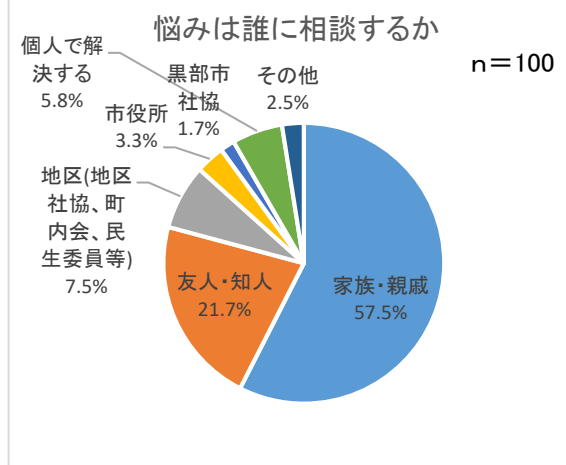


問6で悩みがある人は全体の4割いたが、その悩みの内容は、自身の健康や病気についての悩みが多くあった。

## 8. 悩みは誰に相談するか(複数回答可)

	回答(人)	%
家族・親戚	69	57.5
友人・知人	26	21.7
地区(地区社協、町内会、民生委員等)	9	7.5
市役所	4	3.3
黒部市社協	2	1.7
相談する人がいない(相談はしない)	0	0.0
個人で解決する	7	5.8
その他	3	2.5
全体	120	100.0

### 【その他】医師、病院



悩みに対して誰に相談しているかは、「家族・親戚」が57.5%と最も多く、次いで「友人・知人」が21.7%、「地区」、「市役所」、「黒部市社協」は合わせて12.5%であった。地区と回答した人のほとんどが民生委員と答えていた。

## 9 楽しみや生きがいを感じる時は（キーワード別にまとめた）

### 趣味

- ・ 編み物（2名）
- ・ 囲碁
- ・ 踊り（2名）
- ・ カラオケ（3名）
- ・ コンサートに出かける時
- ・ 体操（4名）、水中ウォーキング
- ・ ドライブ（2名）
- ・ 縫物をして自分の洋服を作ること
- ・ パークゴルフ
- ・ 野菜づくり（2名）
- ・ 旅行
- ・ 旅行、お風呂、温泉、孫
- ・ 老人会、明日温泉、畑
- ・ 食事、お話
- ・ 美味しいものを食べている時（3名）
- ・ 自分の趣味を楽しんでいる時

### 外出

- ・ 福祉センターに来ること（26名）  
（友人と話をする、体操、お風呂他）
- ・ メルシー行くのが楽しみ
- ・ センター、メルシーが楽しみ
- ・ 買い物
- ・ 週2回たかおかやに行くこと
- ・ 地域の方に声を掛けていただいて世代をこえて交流している時
- ・ センター（1/w）、池田リハ（2/w）
- ・ 介護予防教室や生涯学習教室参加
- ・ 地域交流イベントに参加すること

### 仕事・ボランティア

- ・ シルバーで働く時
- ・ 畑仕事（7名）野菜よくとれたら幸せ
- ・ ボランティア参加（3名）
- ・ どんな会にも積極的に参加している時
- ・ ボランティアで踊りをしている時
- ・ 仕事が楽しい

### 健康・暮らし

- ・ 自宅でテレビを見ている時
- ・ 自分のことを自分で出来ていること（2名）
- ・ 自分の時間を好きなように使っている時
- ・ 1人の時間
- ・ あまり深刻に考えず、自分で何とかやれている
- ・ 元気であること（早寝・早起き）
- ・ 健康であること（3名）
- ・ 飲んでいる時
- ・ ワクワクした時
- ・ 人に感謝された時
- ・ 人の役に立つことができた時

### 家族・子供・孫

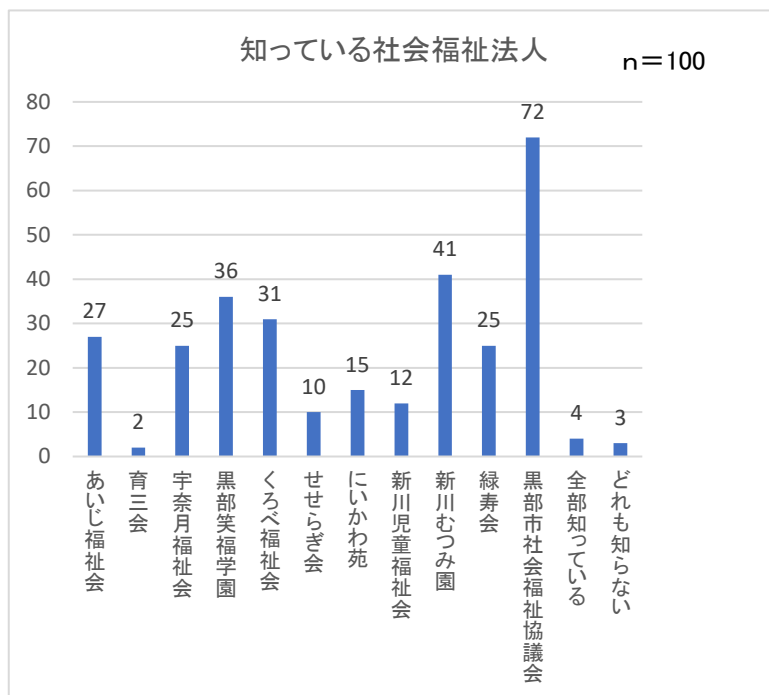
- ・ 家族が笑顔である時
- ・ 家族とお正月に会うこと
- ・ 家族との絆
- ・ 子供達がたまに買い物してくれる
- ・ 子供達と話をすること
- ・ 子供とおしゃべり（2名）
- ・ 子供と過ごすこと（2名）
- ・ 子供との触れ合い（学童保育・囲碁）
- ・ 子どもの笑顔を見た時
- ・ 子供の成長を感じる時
- ・ ひ孫を見る楽しみ

### 友人

- ・ 友達が誘ってくれるので楽しく過ごしている
- ・ 友達と会う事とお風呂に入る時
- ・ 友達と会える時（3名）
- ・ 友達とおしゃべり（2名）
- ・ 友達と趣味を楽しむ
- ・ 友人がたくさんいるから楽しみ
- ・ 友人と社協に來たり食事に行ったり
- ・ 友人と話をする時（2名）
- ・ デイサービス行った時に友達と話ができる時が1番楽しい
- ・ おでかけして友達の顔をみる時
- ・ 喫茶店に行って友人と話をすること
- ・ 皆さんと話をする時

10. 黒部市内の社会福祉法人で知っている法人は

No.	法人名	回答数
1.	あいじ福祉会	27
2.	育三会	2
3.	宇奈月福祉会	25
4.	黒部笑福学園	36
5.	くろべ福祉会	31
6.	せせらぎ会	10
7.	にいかわ苑	15
8.	新川児童福祉会	12
9.	新川むつみ園	41
10.	緑寿会	25
11.	黒部市社会福祉協議会	72
12.	全部知っている	4
13.	どれも知らない	3



回答者のほとんどが黒部市社会福祉協議会主催の年越しまつりに参加されていることもあり、その会場となった福祉センター(黒部市社協)のことを知っている人が全体の7割と多く、その他の法人についても、保育、高齢、障害ともに全体の1割～4割程度の認知度があることがわかった。

【まとめ】

「ふくし丸ごと合同相談会」の会場にて実施したアンケートは、黒部市福祉センター年越しまつりと同日開催ということもあり、来場者(回答者)は、高齢の方が多く、その年代も全体の約6割は80歳以上であった。個別相談を希望される人はいなかったが、「アンケートを通じて専門員と話をすることができ気持ちがすっきりした」との声も一部聞かれた。

悩みごとについては、半数の人が悩みが「ない」と答えていたが、悩みが「ある」と答えた方は年代問わず、自身の健康や家族の健康についてがほとんどであった。生きがいや楽しみなことの約3割は、福祉センターでの体操やお風呂、友人とのおしゃべりが上げられ、施設全体が介護予防に大きな影響をもたらしていることが改めてわかった。また、人と会い、話すことが楽しみと感じている人が大多数であった。

黒部市社会福祉法人連合会の認知度に関しても、回答者の9割が年越しまつりを目的とする高齢者であったことから、黒部市福祉センターを運営している黒部市社協の認知度は高かった。しかしながら、高齢者分野に限らず、保育分野、障害分野の法人も1～4割程度の認知度があった。

今後取り組む地域における公益活動においても「黒部市社会福祉法人連合会」及び11の会員法人の認知度を高めることを1つの目標とし、活動内容もより充実したものを検討していきたいと考える。